

第7回

(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画

策定検討委員会

## 会議録

《要約版》

事務局 多可町生涯学習課

## 第7回(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画策定検討委員会 会議録

- 日 時 令和3年11月24日(水) 午後7時～午後9時
- 場 所 多可町町役場 大会議室
- 出席者 20名/24名(敬称略)
- ・委員長 小嶋 明
  - ・副委員長 宮崎 和明 松本 壽朗
  - ・委員 熊田 正博 大上 和徳 南畝 香野子 吉田 忠雄 門脇 昌弘  
布一 和也 清水 賢彦 山口 達也 殿井 瑞穂(代理:吉田宏之教頭)  
植山 晶子 岡本 美紀 杉本 真 山本 和樹 山本 早希  
萬浪 佳隆 古南 宏恵 近藤 なぎさ
- ・事務局 地域共生担当理事兼ふくし相談支援課長 藤原 正和  
生涯学習課 課長 檜本 一郎  
生涯学習課 副課長 梅田 一志  
教育担当理事兼教育総務課長 藤本 志織  
教育総務課 図書館長 畑中 俊裕  
教育総務課 図書館司書 依藤 啓子
- 議 題 (1)次第3 報告事項  
(2)次第4 グループワーク
- 会議結果 (1)町から検討委員会の広報状況、基本計画の答申書(案)について報告しました。  
(2)委員が4グループに分かれグループワークを3回行いました。  
1回目のグループワークは、施設の基本理念等について考えました。  
2回目のグループワークは、施設の施設規模(必要な機能・設備)について考えました。  
3回目のグループワークは、生涯学習振興・まちづくりの拠点施設としての考え方、運営手法・方針等について、意見を出し合いました。  
また、各回でそれぞれのグループの意見を集約し、発表を行いました。

## ■会議の経過

次第 1  (事務局)	開会  20名の委員が出席。1名が傍聴手続き。
次第 2  (B副委員長)	あいさつ  本日もよろしく申し上げます。 これまでの会議を踏まえて答申案をお届けします。この見直しは、社会状況の変化、これからの多可町に必要な幾つかのキーワードを委員相互に、また事務局とも共通認識できたと思います。例えば、「持続可能なまちづくり」、施設の機能を生かした「エリア形成」、住民の知恵で動かす「運営」、それから箱から「町の宝」になる施設という観点です。 この本日の検討委員会で、答申案の叩き台に目を通していただきます。検討委員会を振り返ると、議論の中でハード面・箱物が本来は検討委員会のメインですが、それよりもソフト面、運営がこれから大事で心配だ。もっと充実させなければ、と両輪で取り組むことになっています。皆さんからご意見やプレゼンもいただきました。そのため運営や活動していく体制に関するソフト面での提案も、今回の答申案では重要です。具体的には書きにくい部分もありますが、運営等については終わりにもその旨を提案しております。 今日のグループワークは、ハードを含めて運営についても皆さんの忌憚ない意見を議論していただきたいと思います。 答申書(案)は町長に出す予定ですが、建設での1つのステップです。しかし、これで終わったわけではありません。これが本当に生きたものになるように、ソフト面での提案もしていかなければなりません。答申書(案)の終わりにもありますが、マイホームという言葉も1つの共通認識として、この施設がマイホームになるような運営ができるように、住民主体について考えていただいた議論を反映できればと考えています。 今後、皆さんも来年以降に向けて、建設のことを周知いただいて、協力いただければと思います。 よろしく願いいたします。
次第 3  (委員長)	報告事項  改めまして、皆さんこんばんは。 副委員長の挨拶にもありましたように、本日のメインは最終的な答申書(案)をグループワークで取りまとめていきたいと思っています。 先日、平田オリザさんの講演を丹波の森公苑で聞きました。コミュニケーションデザインという新しい概念を平田先生は提案されていますが、そのキーワードを講演中で教えていただきました。相手の語っていることのコンテキスト・文脈を読み取る力、そしてコミュニケーションを取るにはデザイン力が必要だ、というお話です。今回私たちが検討を加え・まとめようとしている(仮称)生涯学習センターについても、コミュニケーションをいかに取っていくのか、住民相互が様々な多様性のある中で、1つの思いをマイホームにしていける施設にする。そのことがこの町を

<p>(事務局)</p>	<p>持続可能にさせていく原動力になるのだと思いました。</p> <p>ただ聞くだけで終わってはならないと思い、平田先生に講師としてこの町に来ていただきたいと、地域共生推進協議会で講演会を計画しています。1月18日の夜、ベルディーホールで、世界的な劇作家の平田先生にコミュニケーションデザインや生涯学習のまちづくりについてお話を聞くことにしていますので、またお知らせします。</p> <p>それでは、事務局から報告事項等も含めよろしくお願いいたします。</p> <p><b>(資料2に基づき検討委員会の広報状況を報告)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報たか9月号：中高生ワークショップを紹介</li> <li>・ 広報たか11月号：検討の進捗状況を紹介</li> <li>・ 広報たか12月号(案)：委員のプレゼン内容や意見をピックアップして紹介</li> <li>・ たかTV：10月23日～町政インフォメーションで進捗状況を紹介</li> <li>・ 生涯学習課 In스타그램、町ホームページでの発信状況を紹介</li> </ul> <p><b>(資料1、1-2、1-3、1-4に基づき答申案の説明)</b></p> <p>前回示しました素案に、同じく前回検討委員会で出た意見をできるだけ落とし込む方法で答申書(案)を作成しました。本日は、この(案)に再度皆さまからご意見を頂戴したいと考えています。グループワークの際にセクションを区切りながら、要所を説明し、文面や内容について揉んでいただきたいと思っています。</p> <p>答申書(案)の全体的な説明です。基本的な内容は平成25年度の「提言書」の内容を踏襲しておりますが、章立て等は見直しをしております。検討委員会から町へ提案していただく、という格好になりますので、全体的に提案型の文面としております。黄色のマーカー部分は、各委員方に文面や内容を確認いただきたいところ、緑色のマーカーは、事務局で数字などをもう最終確認する予定の箇所です。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>ありがとうございました。少しお願いがあります。</p> <p>本日まで事務局と委員長・副委員長とで、作業部会で随分と意見交換をしてくれています。皆さんから頂いた意見を踏まえて作業をしていますが、限られた時間で埋もれていることがあるかもしれないため、忌憚のない意見をいただきたいと思えます。</p> <p>ただし大事なことは、根幹をなす部分を重点的にお願いしたいと思えます。細かい文言等よりも、根幹をなす理念的なこと、今後の運営といった総体について十分議論をいただければと思えます。</p>
<p>次第4</p> <p>(A委員)</p>	<p><b>グループワーク</b></p> <p>1つ確認で教えてもらいたいのですが、1ページ目の「2. 建設の必要性と位置付け」の中に「子育てするならダントツ多可町」とあります。当初は「子育てするなら多可町」という表現だったかと思いますが、正式に「ダントツ」の文言が入っているのか、確認したいです。</p>

(事務局)	町長、政策で使用している言葉で、それを引用しております。
(A委員)	そうですか、ありがとうございます。
(B委員)	今日のグループワークは、セクション毎に区切ってチェックしていくのですか。
(事務局)	はい、順次区切って進めます。 まずは前半の理念的な部分へのご意見をお願いします。
(B委員)	わかりました。
	(グループワーク 1 を実施)
(事務局)	各班それぞれ発表していただいてもよろしいでしょうか。
(A班)	<p>A班のポイントは2点あります。全般的なことで「まちづくり」という言葉が一貫して出てきます。総合計画の基本的な姿勢を受けている部分があると思いますが、「みんなで」まちづくりをする、「みんなが」参画するというような表現が入った方が、皆が捉えやすいと思います。「みんなで」という言葉をキーワードとして入れてはどうか、という意見がありました。</p> <p>5頁の必要な機能のイメージ図ですが、3つの広場がそれぞれの独立したようなイメージで出てきますが、どうしても重なる部分があると考えます。3つの円が重なる図も考えられます。それぞれの機能の説明が右に出っていますが、これを見ても具体的に何か、どう表現するかは難しいところです。教育論的な展開として、学習の展開・その発表・その発表をもとに更に新しい学びの場が始まる、という3段階を踏まえて、どういう図にできるのか、という話になりました。</p> <p>インプットからアウトプットへ、またインプットに戻ってというサークルがあるという話になりましたが、具体的にどうする、という結論まではいきませんでした。</p> <p>以上です。</p>
(B班)	<p>B班で話したのは、1頁の下から3行目「幼児から高齢者まで年代を問わず、町民が集い、交流し、つながり、生き生きした」のところ「学び」を入れた方が良いのではないか、となりました。</p> <p>基本理念の頁で「あらゆる世代が互いに学び合い、教え合い」と書いています。次頁のイメージ図でも「①学び」とあり、学びについてはずっと検討してきた中で、皆さんの思いもあると思っていますので、B班としてはこの言葉を入れてもらえたら、となりました。</p>
(C班)	<p>1頁の下から3行目、「幼児」を「乳幼児」として、生まれてから一生涯、0歳からという両方の意味で入れて欲しいと思いました。</p> <p>5頁のイメージ図です。「①学びの広場」で、「図書館を中心に資料、情報を提供する機能」について、資料や情報を提供するの図書館であって、生涯学習センターとして考えたときには、「図書館中心に学びの場を提供する」という文言にした方が良いのではないか。これが人づくりにつながるので、言葉の表現の仕方は大事</p>

かな、と考へ「学びの場を提供する機能」としてはどうか、という意見が出ました。

それから「③表現の広場」について、「表現」という言葉が、イベントで表現することだけで終わってしまう、見て終わり、という感じがするため、「表現」という言葉を「創造」という言葉に変えてはどうか、という意見も出ました。創造という文字を使うことで未来へつながっていく、まちづくりになっていく、というイメージになるのでは、という意見が出ました。

前後しますが、4頁の基本理念です。「多くの人々が地域社会の中で出番があるように知識を深め、居場所や集える場の整備を目指す」というところです。「出番があるため」だけに知識を深めるのではなく、やはり『「生涯にわたって」知識を深める』という言葉が大事だと思います。なかなか良い言葉が見つからなかったのですが、『「生涯にわたって」知識を深めるため、居場所や集える場の整備を目指す』でまとまりました。

(D班)

D班は4頁の基本理念に関して、黄色の4行に絞って集中的に話しました。

「学習」、「学び」という言葉や、学習機能、学習情報、学習の成果、学習を通じて、なおかつ学習センター。「学習、学習」と、このセンターに来る人は学習しなければならないのかと、それ以外の人には来てはいけないのか、というくらい強制力が強く、壁が高い。バリアフリーの時代にしては、入口の玄関が3段も4段もあるような気がして敷居が高い。

色々な世代の色々な方が、町の方も町以外の方も、男女関係なく、外国人の方も、皆が気軽に寄りやすい建物でなければ困る。その人たちが交流を持ち、多様性がある、町の拠点であって、その中から将来的なビジョンや未来へのステップ、みんなが語れる未来予想図のような建物でなければならない。あのセンターに行く人は賢い人で、常に志の高い学習を求めて、そんな人しか行ってはいけない。それでは勿体ない、という意見がありました。

(事務局)

ありがとうございました。確かに「学習」という言葉は多いですね。また文面を考えていきたいと思います。

次に機能、ハード面について確認いただきたいと思います。資料中の「7. 施設規模(必要な機能、設備)」の箇所です。ほとんどの内容は平成25年の提言書の内容を踏襲していますが、一部修正や皆さんの意見を反映しています。

#### (グループワーク2を実施)

(A班)

音楽室は、防音ガラス等で室内が見えるようにするのが良い、という意見が出ています。

エントランスは絶対に広い方が良いので、図案B案が良いと思います。先程D班も言われていたように、敷居が低くないと皆が行くことができないと思うので、エントランスが閉鎖的なのは行きにくい、と思います。

男女共同参画・多文化共生コーナーは、テーマ性の高いコーナーですが、はっきりした仕切り・壁を作って部屋を分けるのではなく、開放的な作りにして、区切りは設けた方が良いと思いますが、完全には仕切らないで、コーナーがあることが見えるのが良いと思います。

音楽室が奥まったところよりも違うところの方が良い、との意見がありました  
が、やはり音響の関係で、奥まったところにあることにも意味があると思います。  
見えるようにするという点では、表現することを交流スペース、エントランスでピ  
アノを弾いたり、ギターを弾く子がいたり、何かやっているから行きたいな、とな  
るため、ミニライブなどの小規模なイベントを皆が見られるようなエントランスが  
すごく大事、という意見になりました。

(B班)

会議室が大・中・小という形で区切りできるように、という話が出ていましたが、  
大・中・小にこだわる必要はなく、可動式でいつでも目的に合わせて使えるよう  
にしてはどうか、という意見が出ました。

あと、駐車場が約 100 台になっていますが、もう少し確保した方が良い、という  
意見が出ました。

自分自身が思うところで、交流スペースである程度の区切りは必要だけど、あま  
り区切らない方が良い、という意見について、個人的な意見ですけど、Wi-Fi を設  
備するのは大変良いことですが、間仕切りのある部屋に Wi-Fi があると子ども世代  
や若い人たちが、例えばゲーム等でそこで利用するためにその部屋に籠もるとな  
ったら意味がないかな、と思いました。例えば学習、リモートワークに使えるスペ  
ースは有線で、間仕切りがないスペースでは Wi-Fi が使えるように区切った方が良  
いかな、という意見です。

(C班)

トイレの説明について、「オストメイト」という言葉を入れてはどうでしょう。  
パブリックコメントも出されるかと思いますが、現代は 2 人に 1 人はがんを患う時  
代です。今後、将来を考えると、オストメイトという言葉を入れておくと、そこま  
で考えているのか、と思われると思いますので、検討してはどうかと思います。

それから、建物の形を検討して欲しいです。真四角はイメージ的に合わないと思  
います。アスパルのアリーナが丸いので、一環に作るのであれば、調和したような  
形で少し丸みのあるようなものを、アスパルアリーナと統一感を持たせたような、  
柔らかい雰囲気が生涯学習センターに相応しいと思います。建設資金に余裕があれ  
ば、3 階建てにして 2 階を空中庭園にする、あるいは屋上を庭園にしてはどうで  
しょうか。

そして、子どもたちが豊かに育つためには、子どものときに良い体験をさせてや  
らなければなりません。建物自体も遊び場のような感覚のもの。例えば、建物周り  
を非常階段の代わりに脱出シューターで降りるようなところを、普段は滑り台みた  
いな感覚で使うとか、夢のある形にして欲しいです。大人だけが使う施設ではなく、  
子どもが使って欲しいと思いますので、柔らかい雰囲気のものができるか、と思  
います。

そして、キッズスペースとトイレは隣接する方が、使用勝手が良いです。現在の  
施設はキッズスペースとトイレが離れておりますので、場所的なことを考慮して  
いただいた方がありがたいです。

(D班)

全体での疑問ですが、全体的にはコンクリートですか木材ですか。

(事務局)

まだ構造までは決まってないです。

(D班)

できれば多可町ですから、周りが自然いっぱいなので、木材を使っていただいて、というのが私の希望です。

個別の意見としては、男女共同参画・多文化共生等の機能は必要ですが、部屋として決めてしまう必要性はあるのか、と思います。事務所にしては面積が広いような、そこに押し込めるようでは勿体ないスペースになると思います。それ以外では配置はB案が良いと思います。エントランスでマルシェや展示会といったストリート的なものができて、交流スペースに色々ある玄関周りは良いと思います。

C班でも言われていた、建物自体を遊びの場と一緒にするようなイメージ例ですが、西宮市にある兵庫県立芸術文化センターが、建物の1区画の軒下を、特に目的がなく4m×50m3段ぐらいの階段にして、ガラス面と向かい合うようにした。自分が映るからダンスする色々な学生グループが集まるようになって、さらに高校生や大学生が、それを見ながらお昼ご飯を食べるようになった。前が公園になっているから、そこに同じような学生が来るから、今度は公園で座るスペースを作るとなると、丸テーブルを作って、どんどん当初の予定とは違う目的外の使用になっていった、と聞きました。そういったスペースあれば、中学生や高校生の発想でちょっとしたところに遊び場、自分の居場所を見つけるものなので、作ってあげてヒントを与えて欲しい、と思いました。

(事務局)

ありがとうございました。

沢山意見をいただいたので、だいぶん修正する必要がありますね。実際、建物を造る段階になると、予算が許すならば、面白いこと、デザインにも凝ったことをどんどんやりたいと思いますが、一応事務局側の立場で言わせてもらいますと、あくまでも基本計画ですので、あまり面白いものを書けない、というのが正直なところではあります。

しかし、冒頭にも述べたように理念、考え方として入れておいた方がいい、という意味合いで作っている部分もあります。皆様のご意見を預かって、もう一度案の中に落とししていきたいですが、最終的に面白くない書き方になるかもしれません。その点はご了承いただきまして、次の段階でまた意見を出してもらおう機会も設けたいと思います。

余談ですが、木造かコンクリート造かという話がありました。事業規模として3,000㎡ほど、事業費は13億5,000万円で挙げておりますが、こちらで調査すると近年の類似施設の建設費のみですと、おおよそ45万円/㎡ということが分かっております。例えば建物を木造にするのか、コンクリート造にするのか、あるいは例えばホールでも、コンサートホール並みにするのか、現在のプラザの会議室並みにするのかでも随分変わりますので、あくまで平均的な数字です。この程度の施設を要望します、という意味で挙げておりますので、必ずこの事業費になるということではない点、ご理解いただきたいです。

資料に戻りまして、やはりB案の方が良いイメージ図ですかね。B案を使う方向とさせてもらおうと思います。

もう一度資料に戻っていただき、8頁の候補地です。以前の検討委員会では5つの案を提示しまして、5番が中プラザに立地する案でしたが、可能性が薄いため4つの案でご検討いただきました。その後も引き続き検討を続けており、候補地については表にして整理しております。自然環境が豊か、アクセスしやすい、アスパル・中央公園・子育てふれあいセンター、このあたりとの近隣の相互利用を期待すると

という観点です。活動エリアやゾーンということを大切にしてお検討いただいています。

場所については、一度こちらで預らせていただけませんか。と言うのは、付記に書いておりますが、建設場所については、今後検討される公共施設整備や公共施設再配置計画と整合・連携を取りながら総合的に判断する、という書き方です。前回話題に出た、中学校統合や他の公共施設再配置の関係もありますので、町で総合的に判断して考えていきたいと思っております。そして、防災面等の専門的な判断も必要になるため、町でお預かりして総合的に考えていきたいと思っております。未確定ですが、全体を見渡して、施設配置計画を考えてみよう、という話もあり、そういう中で検討していきたいと思っております。

ただ、本委員会での検討として、エリア・ゾーンを大切にする、アクセス手段・周辺整備として公共交通、バス停等の整備について検討する、というような必要なことは記載をしております。

資料編の9・10頁に、以前検討いただいた候補地案を挙げております。この中で決定できれば良いのですが、今のところ難しいところもございます。資料1-3の航空写真は、施設連携ということで、アスパル・子育てふれあいセンター・中央公園を図示しています。委員会としては、このエリアを検討しました、この中でよく考えてくださいね、という提案型にさせていただこうかと思っております。専門的な検証も必要になりますので、そういう格好で出させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

一同

(異議なし)

(事務局)

どうもありがとうございます。

(B委員)

資料編の11頁・建設候補地の総括表には、一覧表には、○や×が入っているが、本当にそうなのかな、と思いました。委員会では、基準も明確にあった訳ではないですし、時間もなかったなので、この評価はこれで良いのかな、と疑問を持ちました。ミスリードすることがないようにしていただきたいと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。この総括表は担当の主観で判断しているところもございます。書き込んでしまうと決め打ちになりかねないため、ご提案いただいたように、条件を挙げても優劣を付けない方法もあります。差し支えなければ、条件検討を行ったという提案として、優劣の記号は消すという方法で考えます。

そして先程の話ですが、このゾーン内で考えてください、ということで、別紙で航空写真を付けようと思っております。よろしいでしょうか。

一同

(異議なし)

(事務局)

ありがとうございます。

次へ進みます。資料8頁です。またソフト的な話に戻ります。「9. 生涯学習振興・まちづくりの拠点施設として」で、最終的にはネーミングのご相談です。以前も色々なアイデアもいただきましたが、今回、あくまで正式名称ということで、「ま

ちづくり」というキーワードが結構出てきておりますので、そういう理念に基づいて、「(仮称)多可町生涯学習センター」から、「多可町生涯学習まちづくりプラザ」という名称はどうか、というご提案です。あくまでも理念を示した、設置管理条例とかに挙ってくるような正式な名前です。

前々から委員会では、愛称は公募した方が良く、という意見をいただいておりますので、愛称については公募することを追記しようと思います。

それから、「10. 運営手法・方針」です。直営や指定管理という提案をさせていただきまし、委員方のプレゼンの中でも、そういうことを積極的に進めていくべきだ、という意見もいただきました。ここでは手法をまとめております。付記としまして、住民主体による運営組織立ち上げ、それから指定管理など積極的に検討してください、というような文言を書いております。付記の2つ目としまして、多可町ではまだそういう実績がないので、支援とか伴走も検討してくださいと、官民連携を推進してください、というような文言を入れております。

最後に「11. おわりに」として、以前に無かった項目です。皆さんの思いが「もしかしたらこういうことかな」と思って書きました。正直、私が思いを入れたのはここだけでございます。他は手間を掛けましたが、あまり気持ちは入ってないかもしれません。これを書くのに、実は委員長・副委員長と随分ご相談をさせていただきました。委員長、思いがございましたら発言をお願いします。

(委員長)

これから一番肝心なところになるのですが、「11. おわりに」についてです。今日までの皆さんの意見を踏まえ、このセンターの運営をどうするのか、ということに尽きると思います。単純に考えると、直営、要するに図書館と施設管理・運営担当課が入って、そこに事業ごとに住民や団体が参加する、という運営が良いのか。そうではなくて、マイホーム意識を持って、マイホームを自分たちで主体的に運営していく、そういうことを形にしていく。今までの議論からすると、そういう雰囲気が強かったため、それを加えなければ提言にならない、と思い、表現は色々あると思いますが、こういう形に書いていただきました。

こういう施設を将来にわたって運営していく中で、若い世代が主体になって将来この町を担っていくという自覚・覚悟のもとに、全世代が応援していく。そこに行政と連携しつつ、主体は住民である、という仕組みを作るのかどうか、ということになります。でも、そういうことをすると負担が大きくてかなわない、従来どおり行政にしてもらえば良い、と思うのか、そうではなくて、これからは自分たちがその自覚の下にやっていくのだと、そのことによって文言も変わっていきますので、そのように書いています。

それから、最後の4行にもありますように、参加委員から何回か指摘を受けましたが、30年前、中町時代にベルディーホールを立ち上げるときに、現場を分かっている、ステージ文化を分かっている人たちが主体になって、運営組織を作って、当時40歳前後の十数名の方であれだけの施設を動かしていった。もちろん、文化会館というセクションがあって行政と一緒にやってきたのですが。そういう前例がある中で、「住民の、住民による、住民のための学びの場」として運営していくのかどうか。要するに、私たちの今までの議論を集約すると、そういう覚悟のもとにできるのか、できないのか。それを再確認していただいたら、最後の文面が出来上がるのじゃないかな、と思います。これはあくまでも叩き台で、このとおり提言する意味ではなく、覚悟を確認させて欲しいということです。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。実はそういうご相談も委員長・副委員長としながら、この文面を考えました。最後はこの点について、もう一度、皆さんの思いを聞かせていただきたいと思います。項目で言いますと9番以降についてお時間を取りたいと思います。

(グループワーク3を実施)

(A班)

時間が足りずに11番まで進まなかったのですが、9番の名称では「多可町生涯学習まちづくりプラザ」はちょっと長いのではないかと、という意見がありました。生涯学習を取って「多可町まちづくりプラザ」、まちづくりに重きを置いた名前はどうか、という意見がありました。愛称を後で募集するのであれば、例えば、今は「アスパル」の愛称で通じるし、それを使っている。多可町文化会館は「ベルディー」「ベルディーホール」と愛称を使っているので、愛称があるのであれば、名称はこの提案のものでもよいのでは、という意見もありました。ただ、「ベルディー」や「アスパル」の名前が定着するまでは、その名称が表に出てきやすいため、名前は「まちづくりプラザ」のように略しやすいものが良いのでは、という意見でまとまりました。

10番運営ですが、形態は色々あっても、やはりリーダー人材をどう確保するのが大切ではないか、という意見がありました。公募して直営という形でリーダーとして入ってもらって運営するのが良いのではないかと、いうことでした。

ここから個人的な意見ですが、私は直営でも指定管理でもない方が良いと思っています。以前述べた個人的な意見として、組織体は民で、できれば一般社団法人で自治体の職員さんが出向する、混ざり合った形を目指してはどうでしょうか。なぜかと言いますと、私は現在指定管理施設で働いています。その前は自治体で働いていました。両方の立場を経験していますが、中に入らないとお互いの考え方は分かりません。民間の経営は、お金や予算ありきという言い方は悪いですが、どう自分でお金をつもりして、どう事業を回していくか、という考え方に重きが置かれます。自治体は、皆さんの税金をきちんと使わないといけないから、ゆっくりと考えます。お互いが違う立場でやったら上手いかわからないため、直営も指定管理も良くないのではないかと、思うため、ほど良く混ざり合った官民連携の運営を、個人的に模索できれば、と思っております。

(B班)

B班は、8と9は飛ばして、10と11について話しました。

指定管理も良いですが、当たり外れがあると思います。指定管理事業者によって、条件や運営を考える検討委員会を設けた方が良い、という意見もあります。直営でもA班の意見にあったように、リーダーがしっかりとコンセプトを持って運営するのであれば、リーダーにしっかりと1人を決めて、複合施設のため、例えば図書館や学習施設に対応した色々なメンバーで運営するとか、エリア毎に運営を任せるメンバーを変えながら、その中で連絡会議みたいなものを持って調整していけば良いのではないかと、思います。

直営と指定管理が条件的にどうかは、まだ詳しい予算的なことも分かりません。ただ、指定管理にするとたぶん1年契約ではないと思いますので、5年等の長期契約となると、指定管理者の質が不十分な時には不都合な場合が出てくるのではな

	<p>いか、と思いました。</p>
(C班)	<p>名称は、「まちづくりプラザ」でも良いですが、拘りがあり、プラザの「ザ」を「座」にてはどうでしょう。八千代や加美のプラザも同じような波及効果を狙えます。「座」は集まり、車座になる。そういった柔らかい雰囲気のものであるような、生涯学習の町である。なるほど、と思って聞いておりました。</p> <p>運営については、答申のため、直営がある、指定管理制度がある、といった形で検討される。A班やB班からも出ました意見は、確かにそうだと思います。ただ、私の経験からすると、多可町のベルディーホールでは、当初民間の方が入られて館長をされ運営されていましたが、途中から、合併のせいもあったのかもしれませんが、行政に運営が変わった経緯があります。それともう1点、僕、ちょっと他所で、退職してNPO法人で公民館の運営に携わったのですけれども、指定管理に対する考え方が少し違うのですね。多可町の場合は僕が知っている限りは、経費を節減したらその分だけ指定管理料を下げろ、というような議員さん方の意見も強くあったが、そこは努力されたのだから、少々の利益を残しても良いのじゃないか、という思いからいくと、一部民間が経営する方が後々でプラスαの部分ができるのじゃないかな、と思ったりもします。</p> <p>だからこの辺、非常に私自身の判断も直ぐには難しいので、今は意見を差し控えさせていただいて、答申でありますので、このとおりで答申していただいて、あとは委ねる、ということにしました。</p>
(D班)	<p>『多可町まちづくりプラ「座」』に決めました。先程言われていた『プラ「座」』、良いな一と思って。「八千代まちづくりプラ座」、「加美まちづくりプラ座」に変えれば、それは良いな、ということで決めました。</p>
複数	<p>(笑)</p>
(D班)	<p>あとは運営ですが、民だけでやるのは、流行りだけどしんどいです。官だけでやるのは、流行りでもない。官が中心で大きくなって、民が付いてくるのも流行りではない。やはり民が頑張っって官が色々な面でサポートすることだと思います。</p> <p>運営自体は図書館とかホールといった色々な場所があるので、図書館であれば、応援隊やおはなし会、色々なそういった方々にグループで入っていただいて、図書館協議会のようなものができるでしょう。ホールであればホール運営協議会のようなものができると思います。どれだけ枝葉やボランティアを巻き込めるかどうか、だと思います。</p> <p>いま多可町には、立派なNPOや多方面で頑張られている既存のグループもあるので、そこで成功されているところは活用すべきだと思います。最終的にそういった協議会が1つの大きな協議会になって、ここの施設管理をする、ということです。</p> <p>そして、私たちは生涯学習センターの検討委員でワイワイ言って、公募委員で喜んでワイワイ言っているだけではないので、指定管理となった場合は、公募委員の方は責任を持って、一緒に頑張りましょう。</p>
(事務局)	<p>どうもありがとうございました。悩ましいところですね。</p> <p>最後にどうまとめていくかですが、少しだけトーンを落としましょうか。「運営</p>

	<p>を町民に委ねる」まで書いてしまったのですが、修正案の最後を見ていただくと、少しトーンを下げて、「町民が生涯学習センターの運営に参加できる体制づくり」お役所的な言葉ではありますが、一旦この程度で収めようと思いましたが、いかがでしょうか。</p>
<p>一同  (事務局)</p>	<p>(異議なし)</p> <p>皆さんのお話からは、こういうことは積極的に考えていきたい、という意味はありますので、提案型として方向性は出しておきたいとは思いますが、あまり詳しく書くとそれに縛られますので、書きぶりは考えていきたいと思えます。</p> <p>補足ですが、議論を錯綜させてしまったかもしれないのですが、生涯学習センター全体の話と、中心施設として図書館が入ります。考え方によっては、例えば生涯学習センターは指定管理者で運営して、図書館は直営にするという方法もあります。図書館も指定管理する方法もありますけれど、そこは直営で、という方法もあります。今のところ、図書館計画では従来どおり直営です。以前、多可町図書館には非常に良い人が集まっている、というご意見もいただきまして、その方向で考えています。図書館もどこか民間施設に渡してしまう、ということではありませんので、ご理解いただきたいと思えます。</p>
<p>一同  (事務局)</p>	<p>沢山意見を出していただいたのですが、少し手前味噌ですが、全体的にはよろしいですか。ここは駄目だ、という箇所は無いですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>無かったら、ホッとしています。今日も沢山意見を出していただいて、全部採用できるか、整理・検討します。</p> <p>或いは、先程も述べたように「基本計画」ですので、あまりに詳細に書くと縛られてしまいますので、基本的な方向性、最低限これだけは、という点をもう一度整理して落とし込んでいきたいと思えます。</p> <p>今日出していただいた意見、もう1回整理しながら、一旦事務局、委員長・副委員長で預らせていただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>一同  (事務局)</p>	<p>(異議なし)</p> <p>いつも作業部会で正副委員長に揉んでいただいておりますので、ご理解をよろしくお願いをいたします。</p> <p>ありがとうございました。グループワークを締めさせていただきます。</p>
<p>次第5  (委員長)</p>	<p>閉会</p> <p>長時間ありがとうございました。</p> <p>次回、12月2日。本日の意見を踏まえまして、最終案を提示します。なんとかまとめて、町長に答申書を出したいと思っています。もう一度、最終チェックをさせていただきます。そういうスケジュールでよろしいですか。</p>

一同	(異議なし)
(委員長)	それを進めさせていただきます。大変な宿題をいただいておりますので、なんとか作業部会で皆さんに提示できるように努めたいと思います。
(事務局)	<p>(事務連絡：要約)</p> <p>第8回委員会は、12月2日(木)19時、役場大会議室にて実施。 本日頂いた意見の反映を検討し、最終の答申書(案)を作成。 確認後に、町長に答申する予定。</p>
(C副委員長)	<p>今日も長時間にわたり深い論議ができたかな、と感じております。もう本当に7回・8回と数えていくにつれて、自分のものとして皆さん感じ取りながら、モチベーションを上げていただいて、今日も色んな気付きがあり、学びがあり、この場所が本当に生涯学習の場になっているな、とつくづく思いました。</p> <p>委員が仰っていましたが、これからが大事です。この検討委員会そのものは、一旦12月段階で区切りをつけますが、今度はソフト、あるいは建設の具体的な中身に向かって動きだしますので、また違う組織が立ち上がるだろうと思います。私に申し上げる権限はありませんが、ぜひ本委員会の中の何人かは、その後まで付き合ってもらいたいと思いますし、この答申の中に盛り込まれた、例えば、学びの広場・交流の広場・表現の広場、このイメージ1つとっても皆さん、18、19とおりの意見を出されていました。その膨らみが大事だと思うのです。わずか10頁・20頁の答申だけでも、実際の中身は90頁・100頁でも、言い足りないものがいっぱい皆さんの中に含まれているわけで、それを建設に向かって、あるいはソフトの運営に向かって、もっと繋いでいって欲しいわけです。</p> <p>結びの言葉にはなりません、そういったことをぜひお願いしまして、まだ1・2回お付き合い願いますが、その後のことも含めてお願いしながら、まとめに入っていきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>今日はどうも夜遅くまで、ありがとうございました。</p>
一同	ありがとうございました。